

同 志 社 法 學 (昭和二十八年—二十九年) 總 目 次

論 説

スターリニズムについて	今井仙	一七號	一頁
世界政治とマキヤベリズム	小松堅太郎	一七	三二
中國の分家制度と「家」の性格(上)	内田智雄	一七	六二
ク	ク	ク	
(中)	ク	ク	
(下)	ク	ク	
商法の再改正	島本英夫	一七	七九
農地法批判(下)	加藤正男	一七	九七
純粹法學と法社會學	木鉄男	一七	一二五
民主主義的計畫化と自由	小松堅太郎	一八	一
—政治社會學の一課題—			
日本における近代外交の序曲	高橋信司	一八	三
商法學者ゴーランド・シュミット素描	服部榮	一九	一

英國國際私法における當事者自治の原則	岡本善八	一九	二二
平等・自由・平和について	今井仙一	一九	四六
獨裁政治の基本問題	小松堅太郎	一九	七八
（承前）	小野哲	二〇	六七
政治權力の多元化について	小野哲	二〇	一一三
—權力基礎論からみた現代國家—			
政治學と政治哲學との區別について	今井仙一	二〇	一
遺產分割の法理	谷田貞三郎	二〇	二九
—共同相續財產の清算手續として—			
國際私法における金錢債務	岡本善八	二〇	四七
—英國法を中心として—			
ゴーリドショミットの商法論（二・完）	服部榮三	二〇	九五
By-lawsについて	島本英夫	二二	一
自由考	小松堅太郎	二二	二三
權力基礎論の構成について	小野哲	二二	五二
—政治學の方法としての權力論—			
多元的國家論とマルキシズム	小松堅太郎	二三	一
—ラスキの學說を通して—			

プロパガンダについて……………	今井仙一……………	二三
論語にあらわれた刑に關する思想……………	内田智雄……………	二三
Charter の記載事項……………	島本英夫……………	五六
		七九

判例研究

交換手形と對價關係……………	岡本善八……………	一七
賃貸借契約の當事者の一方に著しい不信行爲があつた場合の契約の解除と催告の要否……………	金 山 正 信……………	一七
所有權移轉登記前の賃貸借解約の効力その他……………	加藤正男……………	一八
——溯及買收・賃借権回復の除外規定、地主の「自作を相當とする」事由、農地改革違憲訴訟——		九六
新民法施行前の離婚の際になされた贈與契約の取消……………	谷田貝三郎……………	一九
「信義に反した行爲」の法的意義……………		一五七
賃貸借解約申入後の事情と借家法第一條ノ二にいわゆる「正當の事由」	加藤正男……………	一九
醫業を營む者の借家法上の地位	金 山 正 信……………	一〇
賃貸借の合意解約と地方長官の許可……………	加藤正男……………	二〇
——改正前農地調整法の合意解約と知事の許可の要否（同法九條三項）——		二三五
間貸と民法六一二條……………	金 山 正 信……………	一一二
		六七

社宅の賃貸借の解約申入に正當事由ある一事例……金山 正信……二三

九五

資料と紹介

憲法改正の原理……	芳野勝	一七	一四九
ドイツ商法の學問的取扱およびこの雑誌の目	服部榮三	一八	一〇五
的について（ゴーリドシュミット）			
ソ連邦法における外國人および外國會社について	岡本善八	一八	一二三
村中入會の成立	井ヶ田良治	一八	一三三
親族法と人間性	金山正信	一八	一四七
——谷田貝三郎著「親族法」——			
フランス法における爭議權	恒藤武二	一九	一六九
立法條約の諸問題	高橋悠	二〇	一三三
英國法における外國會社	岡本善八	二	七二
災害の法律と政治	加藤正男	二	七九
——南山城水害報告——			
植木枝盛藏書目録（同志社圖書館藏）	井ヶ田良治	二	九〇
若きサヴィニーの方法論について（上）	服部榮三	三	九九

書評

仁井田陞「中國法制史」	一五八
小川修著「中國の家族と社會——I」	一四一
内服金	二〇
田山部	二二
智正榮	二三
雄信三	二四
雄	二五